知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室通信
校長　白田　敏幸

～「誰一人取り残さない　子供の可能性を引き出す学校づくり」～

✕（バツ）がつくから、勉強になる。 ～松丸亮吾さんの母が教えた「最高の学習法」～

テレビや雑誌で活躍されている、謎解きクリエイターの松丸亮吾さんをご存知でしょうか。東京大学在学中から「謎解き」ブームを巻き起こした彼ですが、その類まれなる思考力を育んだ背景には、亡きお母様の独自の教育論があったといいます。今回は、学力向上だけでなく、子供の自己肯定感を高めるヒントが詰まったエピソードをご紹介します。

「全問正解」は勉強ではない？

松丸さんのお母様が、子供たちに繰り返し伝えていた言葉があります。 「✕がつかないと、勉強にならないのよ」私たちはつい、テストで○がたくさん並んでいると安心し、✕があると「もっと頑張らなくては」と不安になりがちです。しかし、お母様の考えは違いました。「全部が○だったら、それは『すでにできること』を確認しただけ。一番大事なのは、✕がつく瞬間なの。間違えたことに向き合える子になってほしい」この言葉には、学習の本質が隠されています。

✕を「罪」にしない声掛け

例えば、テストで80点を取ってきたとき。「20点分も間違えたの？」と言ってしまえば、子供は「✕は悪いものだ」「間違えることは恥ずかしい」と学習してしまいます。そうなると、子供は失敗を恐れ、難しい課題に挑戦することを避けるようになります。 お母様が実践されていた正しい声掛けは、こうです。「よかったね、こんなに苦手なところがはっきりしたじゃない！」**✕を「弱点発見のチャンス」と捉え直す**ことで、子供は前向きに解き直しに取り組めるようになるのです。

世界に一冊の「最高の参考書」

さらにお母様は、松丸さんが**間違えた問題だけをすべてコピー**してノートに貼り、「弱点克服ノート」を手作りされたそうです。そして、一冊出来上がった時点でこう渡しました。 **「このノートにある問題、一問でも解けたら成長だよ」** 松丸さんにとって、それは市販のどんな教材よりも価値のある「自分専用の最高の参考書」となりました。**誰かと比べるのではなく、昨日の自分にできなかったことが、今日できるようになる。その「成長の可視化」こそが、彼の意欲を支えたのです。**

「失敗」を祝福する文化を

学校でも、私たちは「間違えることは、宝物を見つけることだ」と伝えています。**✕は否定の印ではなく、伸びしろの印**です。保護者の皆さま、ご家庭でもお子さんが間違いを見つけたとき、どうか一緒に喜んであげてください。**「ここができるようになったら、もっとすごいね」**と。その一言が、子供たちの「自ら学び続ける力」を育む、何よりの栄養剤になります。私たち教職員も、子供たちが安心して**「正々堂々と間違えられる」教室づくり**に、全力で取り組んでまいります。